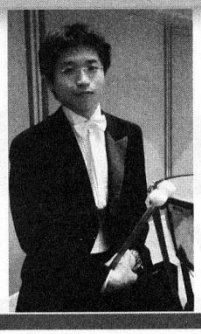
演奏に役立つ One Point Lesson

PERCUSSION

パーカッション

窪田健志 くぼた・たけし



◆出身　長野県上田高校、東京芸術大学
◆所属　名古屋フィルハーモニー交響楽団
◆趣味　映画鑑賞、写真撮影、タップダンス
◆血液型　O型
◆星座　みずがめ座
◆読者にひとこと　今日がダメでも、明日がある！
◆手紙の送り先　kubota_perc@yahoo.co.jp

大太鼓とシンバルは二人三脚

大太鼓とシンバルは好きですか？「目立たなーい！　小太鼓の方がいい」「シンバル？　重た〜い！」、これは誰の意見？　はい、僕が中学生の頃の意見です（笑）。これらの魅力に気づいたのは、恥ずかしながらつい最近。それからいろいろな**「いい音を出す」人&楽器の状態を観察**したり、シンバルを重く感じなくなるように、寮のお風呂に1時間ダンベルを持ち込んで筋トレしたり（周りにいい迷惑！）と、練習してきました。

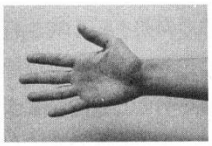
みなさん、「いい音」を感じる環境、ありますか？　CDやyoutubeでもOK、イメージをもてるお手本があるといいですね。

■シンバルは当てる？　擦る？　その前に、ちゃんと持てている？

同じ楽器同士を打ち合わせて音を出すものは、シンバルの他はクラーヴェ（クラヴェス）くらいなので、最初はほとんどの人が重く感じると思います（むしろ、そう感じるくらいのシンバルの方が経験上いい音がします）。が、重くても演奏中だけはコントロールできるように、僕は前述のようなトレーニングをしていたわけです。

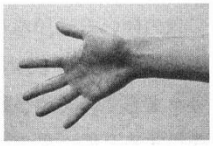
そこまではしなくてもいいですが、まずはちゃんと「持つ」ことから。ここで親指を上にして、手を前に差し出してみてください。

[写真1]



ひじ→手首→中指が一直線のイメージで

[写真2]



これでは手首が下がっている

[写真3]

よい持ち方。手首に注目

[写真4]

悪い持ち方

[写真1]のように中指が前を向いていますか？　気をつけないと（**[写真2]**）のように人差し指が中心となってしまいます。そうなると、手首から先が重力に負けて下を向いてしまうので、中指を少し持ち上げるくらいの意識があるといいでしょう。シンバルを持つときもその意識があると、手首が下がらずにすみます（**[写真3、4]**）。

持ち方は、僕は手皮に手首を通さずにつまみますが、あまりにも重く感じるなら、通してもOKです（ただしシンバルの金属部分に触れる部分をできるだけ少なくしましょう。多くなるほど響きを消してしまいます）。

持った後、いちど腕をピンと前に伸ばした状態にしましょう。肩から腕にかけてシンバルの重さを感じますね。30秒ほど持ってから、今度は縮めて、胸の前（「おなかの前」ではない）で持ちます（注）。疲れてくるとだんだん体に近くなってくるので注意！　次に、①シンバルを少しだけ開いて、すばやく閉じましょう（ドラムセットのハイハットシンバルを閉じるときのように「チャッ」と）。音量はいらないので、鋭く、**よけいな響きのない音**を目ざしてください。

②今度は開いた状態から、ゆーっくり閉じてください。「ガチャっ」という音ではなく、「ズィズィーー」とシンバル同士が触れ合っている瞬間ができるだけ長くなるように。これは重さに慣れていないと難しいです。最後は、③すばやく閉じた後、同じかそれ以上の速さで開いてください。これもハイハットでやると、バネが手伝ってくれてるので楽ですが、それを君の手だけでやること。肩の横の筋肉がプルプルと震えてもがんばって！

これは5月号の「僕が大切にしたいこと」で伝えたうちの1つ「できるだけやってみる」（ここでは、余韻を消す&出す）というものです。極端な話、当て方には①から③の間しかなく（あとは音量の加減だけ）、後はそれを少し（or だいぶ）擦りぎみに当てる、また、上（or 下）に向かう、などの、いわば「味つけ」となります。まずは毎日シンバルに触れて、「持て」て「当て」ることから始めれば、だんだん耐久力がついていきます。

■大太鼓とシンバルのブレンドを大事に

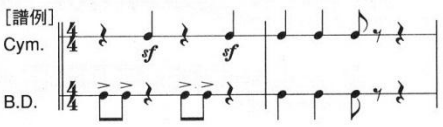
最近のマーチでは、最初にシンバルで華々しく始まって、その後は大太鼓が四分音符で刻み、大太鼓とシンバルが同時に刻みだすのは最後のコーダあたり……、というのが主流（？）のようですが、昔のマーチやワルツでGran Cassa（イタリア語の「大太鼓」）と書いてあれば、Piatti（同じく「シンバル」）と書いていなくても、一緒にやるのが当然、という曲があるように、マーチでは大太鼓とシンバルは切っても切れない関係です。

[譜例]のような場合、大太鼓はアクセントもあるし、軽くすばやく「ドンドン！」となりがちですが、裏拍をしっかり感じたいので、言葉にするなら「どむどむ」というニュアンスで。シンバルは大太鼓の八分音符2つのときに、しっかり準備して入ること。そして*sf*があるので、当てるスピードは速めがいいでしょう（速く当てると音が高くなるのは覚えてるよね？）2小節目に入るときがシンバルは難しい！　アクセントがなくても気を抜かず、また、どちらの楽器も気おくれせず、絶妙なバランスを探してください。3拍目の音の処理（アクセントはつけずに）は短すぎず、長すぎず。記譜通りの長さでできればよいですね。

よく見かけるのは、大太鼓と体の位置が「遠すぎる」人と、シンバルと体が「近すぎる」人。近すぎても、遠すぎてもうまくいかないなんて、なんだか人間関係みたい!?

来月は鍵盤楽器の予定です。んじゃまた。

[譜例]



（注）実際に演奏するときは、胸とおなかの中間くらいに構えるのがいいと思います。